

## ● 「茅ヶ崎市における戸別収集のあり方」(茅ヶ崎市廃棄物減量等推進審議会委員意見まとめ)

(1) 前回の審議会で、事務局より説明のあった「ステーション収集方式の課題」は、地域によって差こそあるものの、全市域に見られる状況となっています。ごみ集積場の状況によっては、戸別収集を実施せずとも、他の対策により解決できる課題もあるかと考えています。そこで、例えば、共同住宅と戸建住宅との集積場所の分離やごみ集積場の分散・増設など、戸別収集の実施以外で、課題解決に有効と思われる貴委員のご提言をお聞かせください。

川島(清)委員	井上委員	松山委員	風岡委員	八幡委員	川島(久)委員	森井委員	細井委員	坂本委員	安齋委員	橋詰委員	高森委員
<p>課題解決に画期的な案があるわけではありませんが、ひとつだけ思っていることがあります。ステーション周辺の環境悪化、特にカラスや猫によるごみの散乱は、カラスネットからネットボックス型の採用によりかなり改善されているように思われます。これを拡大してはどうか。</p> <p>(1)カラスネットからネットボックス型への変更の促進 (2)戸数制限のある設置基準の緩和(住民の要望に基づき設置)</p> <p>戸別収集に近い形となっておりますが、戸数制限を例えば5戸以上としてネットボックスの設置場所を増やせば、人に起因する課題の不適正排出も少し解決できるように思います。ただ、組立や清掃という負担は増えそうですが。</p>	<p>(前提) まず、今回の戸別収集の議論にあたり、前提としていただきたいことは、次の2点である。 1. 市民に過大な負担をかけないこと(労力、金銭)。 2. 知恵によって問題解決すること。 (行政の目標設定) これを前提に、行政の目標設定をどうするかであるが、市民にとって一番ありがたいのは、「分別をせずに、いつでもゴミを出せる。」という状態(実は茅ヶ崎市では自己搬入の場合、既にこの状態が実現している(注1)。)であることは明白であるので、これを第一の目標に置いていただきたい。これにより、市民は分別作業の負担から解放され、違法ゴミ問題もなくなりゴミ当番の負担もなくなることになる。第二の目標設定は当然のことながら、廃棄物の減量化である。行政の最終目標としてはこの2点に絞っていただきたい。 (具体的な提言) 次にこれを実現するために、具体的にどうするかであるが、第一目標の技術的解決法は比較的簡単である。もちろん現状行われている「自己搬入方式」でもよいが、手間がかかるようであれば、「高温処理」が考えられる。これは技術的には既に解決済みであり、実務的にも行われている(中間貯蔵・環境安全事業(株)で実施されている方法)。ただし、設備費用が高いという問題がある。第二目標の減量化については、ゴミ出し後の減量化については行政側で分別する等の知恵で解決し、ゴミ出し前の減量化はスーパー等の業者の協力と1人1人の市民の協力が必要である。これについては今まで通りの地道な努力</p>	<p>①不適正排出に対する制裁的な措置。(条例制定含め検討)不適正排出のステーションを特定し、監視カメラ設置をするといった注意喚起。是正されない場合は、朝から行政がステーションにたち直接指導する。指導、是正がされない場合は、ステーションの廃止、焼却場への直接搬入のみで対応する。なお一部の人による不適正排出の場合は、そのステーションに帰属する住戸のみ戸別収集で対応する。⇒一種の行政罰のようで、市民の多数の反発が懸念。 ②戸別収集を実施してほしい地域については、料金を通常よりも高めに設定し、ステーション収集とは袋の色も変え限定的に戸別収集を行う(集積と戸別の併用運用)。地域選択制(地域の最小単位は自治会なのか、組なのか班なのかは検討)で戸別収集を行う。ステーション廃止と同時に戸別収集の申請をしてもらう。 ③「もえるごみの日」といった大きいカードをステーションに付けて、今日は何の収集日かを明示する。こちらは、市ではごみカレンダー、公式ラインでの案内もしている。不適正排出する人はそもそも、そういった広告を見る機会がないため、根治するような案ではないですが、ないよりはましという考えです。</p>	<p>今回、審議委員となり、この課題に対して様々な方から戸別収集に関する意見を聞いた中に、基本的に戸別収集は反対という方がいました。理由を聞くと、全戸一斉に行う必要性はない、問題のある所だけ行うべきとの意見で、特に不適正排出等で問題が多いのは、小規模集合住宅(アパート)なので、そこを重点的に戸別収集にするべきとのことでした。現在の仕組みでは戸数が8戸以上でない収集ステーションが設置出来ませんが、集合住宅に限り、すべて収集ステーションの設置を義務づける提案です。さらに、収集範囲は燃やせるゴミと燃やせないゴミだけでなく、資源物も含めるべきであると考えています。不適正排出は燃やせるゴミに限りませんが、ペットボトルの適切な捨てかたが出来ない方やびん・缶と一緒に袋のまま排出し、分別をされない方が集合住宅にかなりいます。戸建ての場合のほとんどは自治会に加入しており、顔が見える住民で不適正排出はほぼありません。但し、その様な方々の中で不適正排出が増えているのは、説明が通じなくなった高齢の「認知症」になった方々です。今後は民生委員や包括支援センター等を含めた別の対策が必要だと思います。(思いやり収集で対応できるのか?)</p>	<p>「ステーション収集方式」については、ごみの出し方等の問題点はあると思いますが、更なる啓蒙活動を行うことにより、改善策があると思えますが、ごみ集積場の分散・増設で戸別収集をしなくても、解決できるのではないかと思います。</p>		<p>今は戸別収集のメリットをあまり感じず、現状のままで良いのではと思っています。質問にある戸別収集以外有効となる提案は思いつかないです。</p>	<p>共同住宅と戸建住宅の集積所は別とすべきと考えます。実際に収集で回ると、共同住宅(特に一人暮らし用のアパート)や周辺集積所では、不適正排出多くなります。また、このような拠点においては、啓発を行っても、なかなか改善されません。改善された共同住宅の例として、収集作業員が当時住んでいたアパートで不適正排出物をオーナーが、出るたびに片づけをしてくれたのですが、あまりにもひどく、不適正排出が改善されない場合、処理代を住民に請求するということを通知されました。このことにより改善されましたが、共同住宅と戸建住宅の集積所が同じ場合、このような対策は取れないと思います。お金を取るという対策をした方がいいと言わけてなく、<b>共同住宅と戸建住宅の集積所分離</b>をした方が、対策が取りやすいと思います。共同住宅と戸建住宅の集積所の分離の他に、<b>集積所の増設をし、その集積所を誰が使用するのか明確にする</b>のも良いと思います。集積所によっては、「この集積所は〇〇、〇〇、〇〇以外、使用することはできません」と書かれています。共同住宅と戸建住宅の間と時間はかかりますが、地道に対応すると良いと思います。上記のような対策は、先日の会議でもお話させていただいた通りがかり集積所に排出することへの対策にもなると思います。不適正排出に対する啓発に関して、個人的に不適正排出が啓発によって改善されないことは不法投棄に近い事をされていると、考えてもいいかと思えます。現在の啓発シールより、強く啓発のできるシール等を作成することもいい</p>	<p>先日の審議会での議論を参考に以下のように考えました。 1. ゴミ排出者の見える化が適正排出につながる。戸別収集が究極の見える化とすると、ステーション収集はその対極にあると考えられます。ゴミを見れば個人の生活状況が判ることから、個人情報流出を嫌う方も多いと思われます。見える化をどの程度にするかが、ゴミの適正排出と不適正排出の境界での人の行動に影響すると考えます。<b>ゴミステーションの収集範囲を小さくすることが見える化を促進</b>し、不適正排出の減少につながるの考え方に賛成です。 2. 分別はプライバシーを保護する缶、瓶、ペットボトルについては、専用のコンテナ等に排出すれば、個人と紐づけすることはできないので、プライバシーの露出には影響しない。一方で、<b>新聞、雑誌等は、個人の思想や趣味・嗜好を反映するので、専用の収集袋(新聞紙の回収袋はなじみがある)の利用</b>により、プライバシーは保護される。いわゆる資源ごみの分別の徹底が、プライバシーの保護につながることを周知する。 3. <b>将来の市民への教育</b> 将来、茅ヶ崎市の市民となり、担い手となる子供に対して、環境教育の一環として、ゴミ収集の重要性を教育する。施設の見学、ワークショップ等を実施する。</p>	<p>戸別収集については、藤沢市での実績等に立ち、ごみの出し方等、ステーション利用の方法やマナーに関する課題、すなわち「ステーション収集方式の課題」やごみの減量化の観点から、有効な方法と認識。茅ヶ崎市の実態に即すというより一般論として、「ステーション収集方式の課題」は、現在行われている方法の徹底や、例示されている方法の実施により若干の改善は可能だろうが、特に状況の良くないところでの大幅な改善は期待薄。これはそうした不心得者と接触する機会を設け利用方法・ごみ出し方法の改善等を伝えること自体が困難、という構造的問題だから。「<b>ステーション収集方式の課題</b>」については、<b>残念ながら基本的に原因者自身ではなく、当該地区の熱心な住民の尽力に依存せざるを得ないと思量。無論、市はこれに最大限の支援を行う必要がある。</b></p>	<p>・<b>共同住宅と戸建住宅との集積場所は分離したほうがよい</b>と思います。 ・世帯数の細分化も必要と思う。出し方の間違いがある時、少ない世帯数であれば、誰が出したかが分かりやすい。 ・あるいは、ごみ袋に名前を書いて出す方法は?</p>	

<p>が必要であろう。 (最後に) 以上、茅ヶ崎市民としての思いを述べたが、茅ヶ崎市がどの自治体でも実施していない、画期的で全国初の取組みに向け新しい1歩を踏み出されんことを期待したい。 (注1)ごみの自己搬入について   茅ヶ崎市 (city.chigasaki.kanagawa.jp)</p>	<p>かと思えます。</p>
---	----------------

▶ 次世代への啓発の促進  
▶ 集積場所設置基準の緩和（共同住宅ステーションの単独設置）

(2) 戸別収集の進め方に関して、アンケート結果からは、無作為抽出アンケート・フリーアンケートともに、「全市域一斉に実施すべき」が大勢となっています。そのような状況ではあるものの、無作為抽出アンケートで約6割の方が実施に異を唱えていることを考慮した時に、真に必要な世帯を対象として戸別収集を実施していくことも必要であると考えています。戸別収集の進め方について、貴委員のお考えをお聞かせください。

川島（清）委員	井上委員	松山委員	風岡委員	八幡委員	川島（久）委員	森井委員	細井委員	坂本委員	安齋委員	橋詰委員	高森委員
<p>現状ステーション収集を望むところはそのままで、戸別収集の要求のあるところを実施するとするならば、公平感からも「全市域一斉に実施」がいいと思います。アンケートで実施に異を唱えているのは、現状で問題がない、費用の掛かる戸別収集にメリットを感じていない人が多いのではないかと思います。両案のメリット、デメリットをゴミを出す人の立場だけでなく、市の財政やごみ収集の人の負担のようなものも含め比較して説明するのがいいと思います。説得力を増すため、他市の事例の紹介に加え、<b>地域限定した社会実験もやった方がいい</b>と思います。</p>	<p>市民の多数が戸別収集に賛成していない事実を重く受け止めるべきである。<u>戸別収集以外の方法で問題解決を図るべきである。</u></p>	<p><b>モデル地区を設定し、試験的にを行い、フィードバックをもらう。</b>戸別収集のニーズが高いエリア・低いエリア双方で実施し、その違いが出るかも検証。試験的に行うにあたり、人材確保・教育、車両の確保の事前計画だけでなく、試験実施後、余剰になった人材や車両をどのように吸収するのかまでも包括的に計画すべきと考えます。</p>	<p>地域によっては、収集ステーションの設置や移動に課題が多いとも聞いています。幸い、当地区ではその様な問題は起きていませんが、切実な問題と考えます。近年は高齢者世帯の方々が親族に引き取られたり、施設に入ったりして引越し、完全に居なくなった場合、多くは集合住宅化します。そのお宅にゴミステーションがあった場合は、工事中にどこかに移動が必須ですが、地区によっては、ままならないようです。ゴミステーションの移動や新たな設置は自治会長の業務とされているようですが、とても大変なため本当に困っている自治会長がいます。行政からの適切なアドバイスが必須でしょう。従って、<b>自治会毎あるいは町（住所区分で）毎に、住んでいる方々の実態を知った上で、戸別収集が適切か否かの判断</b>をするべきでしょう。（とても大変ですが、少なくとも自治会長と環境指導員の話聞けば判るはずです。）</p>	<p><b>・モデル地域を決め、実証実験を行う。全地域で実施可能かどうかを検証し、問題点を洗い出す。その結果を見て、分割実施か全地域実施かの判断を行う。</b> ・アンケートの結果、6割の方が戸別収集必要なしという意見をどのように反映したらいいのか難しい点もある。</p>		<p>真に必要な世帯を対象とした戸別収集のメリットはあると思うが、<u>個人情報や防犯の意味で、慎重に検討してほしい。</u>防犯のことを考えると、自治会の防犯対策とセットで実施しなければならないと考える。</p>	<p><u>行うのであれば全市一斉が望ましい（公平感）</u>と考えます。そもそも戸別収集に対して異を唱える方も、（私も個人的には現状のままで良いのではと思っています。）いられることから、(4)に書かせていただきましたが、<b>まずは社会実験を行って理解を求める事が望ましい</b>と考えます。</p>	<p>まず、真に必要な世帯としては障害者認定や介護認定を受けている世帯だと個人的には考えます。全市域で実施を進める上で、一斉に実施するか、少しずつ地区を拡大するか、現状としてどちらが良いか判断が出来ないのが、現在の考えです。戸別収集を実施すると考えた時、非常に細かい部分にまで至ってしまうのですが、様々なトラブルや事故を考えてしまい、それに対する対応等を考慮すると、現状での判断が難しくなっております。<u>他市がどのような対策をしているのか等を調べてから判断する方が</u>良いかと思えます。</p>	<p>戸別収集に賛成する世帯の比率が低い以上、「<u>全市域一斉の実施</u>」を検討する状況にはない。<u>地域を限定して、社会実験として試験導入し、検証するのが適切</u>と考えます。この際、比較のために、市内の3か所程度で実施して、その差を検証することが必要だと考えます。</p>	<p>茅ヶ崎市に限定しない一般論として、<u>戸別収集を導入する場合、住民に対する行政サービスの公平性の観点から全市域実施が当然の施策だが、特に現下の人員・機材確保の困難さ等を勘案すると、そうした実施上の合理的理由があるなら段階的拡大も適切。</u>戸別収集よりもステーション収集を望む自治会等について、<u>そうした選択も可とするという選択制は、住民意思の尊重の観点から許容しうる制度と思量。</u>「真に必要な世帯」については、「真に必要な」を定義し、判断のための指標と判定基準を設定して判断するものと思われるが、極めて例外的・限定的な地区でのみ実施又は非実施とするならともかく、<u>提案から想定される相当程度の実施・非実施地区を切り分ける判断については、現実的か疑問。</u>またそうした地区の混在は、<u>収集体制の計画</u>も複雑・高コストと推察。</p>	<p><b>戸別収集のモデル地域を選ぶ。地域ごとにアンケート調査をしてみる</b>のはどうか？</p>

▶ モデル地域を選定し、実証実験を実施したうえで、再度、「進め方」を検討すべき



(3) 戸別収集の対象品目に関して、アンケート結果からは、無作為抽出アンケート・フリーアンケートともに、『燃やせるごみ』と『燃やせないごみ』を対象とすることが大勢となっています。ごみ集積場所を起因とする様々な諸問題を解決していくためには、全ての品目を対象として戸別収集を実施することが望ましいですが、前回の審議会では、事務局より実施費用が示されており、対象品目が増えれば増えるほど、費用は増加傾向になるとのことでした。両アンケート結果からも「多額の費用をかける必要がない」との意見が大勢なことからも、真に必要な品目に限定し費用を抑制するべきと考えています。戸別収集の対象品目について、貴委員のお考えをお聞かせください。

川島（清）委員	井上委員	松山委員	風岡委員	八幡委員	川島（久）委員	森井委員	細井委員	坂本委員	安齋委員	橋詰委員	高森委員
ごみ回収の基本は、できるだけ安く負担は最小限でということと思うが、戸別収集へ移行するときの混乱を避ける意味合いから <u>全ての品目を対象</u> とするのがいいと思います。費用の増加は、それを少なくする事前検討をして対応するのがいいと思います。	市民の多数が戸別収集に賛成していない事実を重く受け止めるべきである。 <u>戸別収集以外の方法で問題解決を図るべきである。</u>	仮に戸別収集を行う場合は、 <u>品目は、限定的に行うべき</u> と考えます。まごころ収集の拡充など、必要な世帯に対しては、個別に対応すべきと考えます。	すでに1項にも記載しましたが、 <u>不適正排出で困っている品目は燃やせるゴミだけではありません。資源物もかなりの量が不適正に排出されています。</u> 最も多く出されるのは集合住宅と思われるが、工事現場からと思われる不適正排出（主に資源物）も多くあります。	多額な費用をかけて実施すべきではないと考えています。 <u>戸別収集の対象品目は「燃やせるごみ」のみでよい</u> と思う。		戸別収集を前提として考えると、長く置いておくことでカラスなどによる被害を防ぐ必要があるので、燃やせるゴミの戸別収集は困難ではないだろうか。もし実施するとしたら、 <u>プラスチックや不燃ゴミなどしばらく放置しても大丈夫であろう品目を戸別収集することが現実的</u> かも知れない。	<u>優先順位をつけるのであれば、燃えるゴミ・プラスチック・ビンカンペットボトル</u> を考えます。	品目に関しては、現状抱えるステーション収集の問題点などで何を一番解消したいのかによって対象が変わってくるかと思います。廃棄物の排出抑制が一番の目的となるなら、 <u>可燃ごみが対象。不適正排出物の抑制ならば全品目。費用を抑制し、かつ上記質問にある必要な世帯にのみならば全品目。</u> 不燃ごみに関しては、 <u>戸別収集をする必要はない</u> と思います。不燃ごみを戸別収集するとすると、ただただドライブをしているだけみたくなると思います。また可燃ごみと不燃ごみを同時に収集となると、自分自身がそうなのですが、不燃ごみは有料化前と違い、一袋分溜まってから排出するので、パッカー車で収集すると考えた時に、不燃ごみの排出が集中してしまった時に収集台数が増え、17時まで終了しない可能性が考えられると思います。	資源ごみについてはステーション方式でも収集が可能であると考え、戸別収集は、 <u>資源化できない「燃やせるごみ」と「燃やせないごみ」</u> になると考えます。	一般論だが、(2)と同様、 <u>全品目を戸別収集対象品目</u> とすることが望ましいが、 <u>実施上の合理的理由があるなら段階的拡大も適切。</u> その場合、 <u>戸別収集の必要性に立ち、環境・衛生上の問題を生じやすい「燃やせるごみ」から開始するのが妥当。</u> 費用的反対論については、具体的な行政サービスに関する費用的反対論には無論合理性があるが、「多額の費用」は曖昧。ステーション管理上の問題を実感するのみならず、対応している市民はごく一部と考えられ、また戸別収集を経験した市民は殆どいないことから、「戸別収集はステーション収集より高コスト」と聞けば、戸別収集サービスを辞退し、ステーション収集支持により市財政に寄与しようとする「協力的」市民が多いのは当然。戸別収集に伴う増加費用は数百円/人/年程度と推察。当然ながら、 <u>一層のデータの下、費用と効果の両面から改めて要検討。</u>	<u>真に必要な品目に限定</u> でよいと思います。まずは「燃やせるごみ」について、試してみることもありとされます。

▶ 「燃やせるごみ」から進めていくことが適当

(4) 前回の審議会では、事務局より、平塚市が社会実験を経て戸別収集を一部地域で実施しているとの説明がありました。また、厚木市がモデル事業を通じて戸別収集の効果を確認中との説明もありました。戸別収集については、フリーアンケートで約6割の賛成を得た一方で、無作為抽出アンケートで約6割の方が実施に異を唱えています。両アンケートの傾向が相反している状況の中、茅ヶ崎市においても、社会実験等を通じて、戸別収集のメリットやデメリット、また掛かる費用などを具体的に検証する必要があると考えています。社会実験等の要否について、貴委員のお考えをお聞かせください。

川島（清）委員	井上委員	松山委員	風岡委員	八幡委員	川島（久）委員	森井委員	細井委員	坂本委員	安齋委員	橋詰委員	高森委員
<p>今回の大命題はごみの削減だと思います。ごみ袋有料化により大幅に削減ができました。ごみ組成分析から分別をもっと適正にすればごみはさらに削減できることも分かっています。ごみ削減を進める次のステップとして戸別収集の施策があります。フリーアンケートの回答者は問題意識の高い人が回答していると思います。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・個別収集している藤沢をまじかに見ている南東部地域の人 35.3% (=310/868)</li> <li>・ステーションのお掃除当番、ステーションまでのごみ出しを負担に思う戸建て住宅の人 79.2% (=688/868)</li> </ul> <p>したがって、戸別収集を望むのはある程度当然の結果だと思います。また、ごみ有料化により収支がプラスだから実感できる戸別収集というサービスがあってもいいのではと単純に思っている人もいます。同様に、問題意識を持つ人が少ない人も混じる無作為抽出アンケートでは、現状でもなんとかなると思われている人が多いと思われるので費用のかかる実施に異を唱えるのはやむを得ないと思います。こうした戸別収集に漠然とした不安、たとえば</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・市の財政を圧迫するのではないか</li> <li>・自分でポリバケツを出したりしまったりができるか、特に仕事をしている人はしまうタイミングが遅くなった時、風で飛ばされたりしないか</li> <li>・収集車の入れないところの人は効果が実感できるか</li> </ul> <p>というようなことがあると思うので、<b>社会実験を行って不安を解消させることが必要</b>と思います。</p>	<p>市民の多数が戸別収集に賛成していない事実を重く受け止めるべきである。<u>戸別収集以外の方法で問題解決を図るべきである。</u></p>	<p><b>限定的なエリア・期間で、実験をする必要はある</b>と考えます。費用等含め様々なデータを取得する必要があります。前述したとおり、事前準備と試験実施後の人・ものをどうするか包括的に計画をすべきと考えます。</p>	<p>現在、実施中の環境指導員地区会議において、環境指導員と自治会長に向けてアンケートを行っています。その結果を分析し、<b>戸別収集を実施した方が良いと思われる地区をいくつか選び、実験を行うべき</b>であると考えます。その際に、<u>集合住宅が多い地区とか、新興住宅地域で顔が見えない住民が多い地区、等に分類して実験するべきでしょう。全地区で同じように実施するというのはあり得ない</u>と考えます。</p>	<p><b>社会実験は行うべき</b>と考えます。他市が実施しているかどうかはあまり問題にしない方がよいし、<u>茅ヶ崎市に見合う方法を考えるべき</u>と思います。</p>		<p><b>社会実験をしてみることはとても良いこと</b>だと思います。</p>	<p>これまで、みなさまのご意見を伺う中で、戸別収集を望む戸建ての方々もいることから、実証実験をすることで賛否の意見も代わってくると思いますので、検証するのは良い事と思います。個人的に現状不便を感じていないのでこのままで良いと思っていますし、反対の方々も同意見なのではないかと思えます。であれば、<b>実験検証してみる価値はある</b>と思います</p>	<p><b>社会実験等について、具体的に検証すると考えると必要だ</b>と思いますが、検証するために車両や人材を確保した場合、検証した結果として戸別収集をすれば問題はありますがやらないとなった場合、確保した車両や人材に対してどのような対応をするかも考えなければいけないと思います。検証する上で、<b>戸別収集のメリット、デメリットだけでなく、考えられるトラブル等の検証も同時に行った方が良い</b>と思います。トラブル等の例として、前回会議で意見させて頂いた狭い道での通行トラブルや荒天時（台風などによる強風や積雪）のトラブル、後出しに対するトラブルなど。ほかに、戸別収集となると助手はほとんど車に乗らず、歩きもしくは小走りで行う事になるので、作業員に対する身体的負担等も検証してもらいたいと思います。</p>	<p>市民の意見が分かれる施策についての実施の可否を判断するうえで、<b>客観的な指標として実験をするのは必要だ</b>と考えます。ステーション方式に課題があり、対応策が求められている中で、相反する意見があることで判断が下せないのは、課題解決を先延ばしにするだけで、問題解決につながりません。</p>	<p>戸別収集の検討を行った鎌倉市においても、戸別収集モデル実施地区では非実施地区に比して戸別収集賛成／期待率ははるかに高く、戸別収集の方がステーション収集よりも支持されている。戸別収集の経験により、その良さを実感し、収集方法への志向が変わったことが伺われる。<b>茅ヶ崎市においてもそうした実験が必要。</b></p>	<p><b>社会実験は、必要だ</b>と思います。一歩、踏み出すことが大事ではないですか？</p>

▶ 社会実験の実施し、再度、戸別収集のニーズを調査すべき

(5) 戸別収集については、無作為抽出アンケートで約6割の方が実施に異を唱えています。このような状況の中で、全市域一斉に戸別収集を実施していくことは難しいと考えています。しかし、ごみ集積場所を起因とする様々な諸問題を解決していくためには、戸別収集は大変有効な施策の一つであると考えています。前回の審議会で、事務局より説明のあった「市の概況」・「ごみ処理の現状」・「ステーション収集方式の課題等」とアンケート結果、また、(1)～(4)の設問に対する貴委員のお考えを整理した上で「茅ヶ崎市における戸別収集のあり方」について、貴委員のお考えをお聞かせください。

川島（清）委員	井上委員	松山委員	風岡委員	八幡委員	川島（久）委員	森井委員	細井委員	坂本委員	安齋委員	橋詰委員	高森委員
<p>無作為抽出アンケートで、「現状のステーション収集方式のままでよい」と回答した人は、</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・8戸以上の集合住宅の方 65.0%</li> <li>・戸建住宅の方 59.4%</li> </ul> <p>です。集合住宅の方は現状と変わらないので数値が高くするのは当然ですが、戸建住宅の方でも高いのは、ステーション方式課題として挙げたものが該当しない、あるいはそれほど問題と思っていないのではないのでしょうか。一方、戸建住宅の方で「実施してほしい」と回答している方が23.1%います。したがって、<b>現状ステーション方式でいいところはそのまま、ただし、ステーションを分割して小規模にすることを可とし、戸別収集を地域限定で社会実験して、戸別収集による費用増、ごみ削減効果、ごみ集積場所を起因する様々は問題が解決できるか、新たな課題があるか検証</b>してみてもどうでしょうか。</p>	<p>1)で回答済み。</p>	<p>結論として、<b>ステーション収集を原則維持と</b>考えます。費用がかさむ点と、ヒト・車両が用意できるのか、特にドライバー不足は懸念です。実施希望のアンケート結果も鑑み、まずは<b>社会実験としてモデル地域を設定し、実証実験を行うべき</b>です。前述の通り、事前の準備と実験後の人・物の配慮は包括的に計画すべきと考えます。<b>まごころ収集サービスの拡充版として、戸別収集を限定的に行うのもよい</b>と考えます。<b>別料金（通常の金額より高く）を設定し、自治会の組あるいは班を最小単位として、ステーション収集によるデメリットを感じている方々へサービスをすべき</b>と考えます。これにより、増額する費用を極限に抑え、なおかつ集積所に対する不満を持っている地域住民に対して、ピンポイントにサービス提案ができるのではないかと考えます。なぜ金額が高くなるか、あるいはその金額については、戸別収集の社会実験を通じて、説明や金額設定を行うのがよいと考えます。</p>	<p>戸別収集を行う目的の明確化、</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>(1)ごみの排出者が明確になること→不適正排出が減る</li> <li>(2)結果的に分別率が向上し収集作業効率が良くなる</li> <li>(3)ごみの減量につながる</li> <li>(4)環境指導員やステーション近くの住人の負担を減らすこと</li> <li>(5)道路にゴミがあふれず、町の景観がスッキリ（藤沢市）</li> </ol> <p>本来の目的と意義を市民にしっかりと伝えたいと考えます。別料金（通常の金額より高く）を設定し、自治会の組あるいは班を最小単位として、ステーション収集によるデメリットを感じている方々へサービスをすべきと考えます。これにより、増額する費用を極限に抑え、なおかつ集積所に対する不満を持っている地域住民に対して、ピンポイントにサービス提案ができるのではないかと考えます。なぜ金額が高くなるか、あるいはその金額については、戸別収集の社会実験を通じて、説明や金額設定を行うのがよいと考えます。</p>	<p>戸別収集は、実施すべきではないと考えます。</p>	<p>戸別収集はしなくても良い</p> <p>と考える。予算のことを考えても、もっと他に必要なことに費用を回すべきだと思う。戸別収集の実施については、6割が反対している。もちろん必要性を訴える市民もいると思うが、それを、全世帯とか地域とか広い範囲にするのではなく、それぞれのニーズに基づいた個別の対応を考えるべきではないかと思う。市として、自治会等の地域コミュニティの活動をどう後押ししていくかが問われているように感じた。必要なところに必要な予算を回していただき、地域としての役割を果たせるようにしてほしい。また、大人たちだけでなく、子どもたちの環境教育（ゴミや環境と向き合うような）なども進めていく必要があると感じた。</p>	<p>戸建て住宅のみなさん、自治会等の事を考えると将来的に戸別収集は有効な施策とは思いますが、しかしながら、現段階で反対意見が多いのも理解・説明不足部分があるかと思われることから④の<b>社会実験を数年行い、市民への理解促進を高める必要がある</b>と思います。</p>	<p>アンケートの結果を考えると、<b>戸別収集を実施するには時間が必要</b>と、一部地域から徐々に拡大にしろ、現状では市民の方々にはなかなか理解をして頂けない様に思います。市の概要、ゴミ処理の現状、ステーション収集方式の課題等に関して、個人個人が直面している実感が無いと思いますので、必要性も含め市民の方々に丁寧に時間をかけ説明して行く必要があるのではないかと思えます。そのためにも<b>様々な角度から見た、社会実験検証を行う事が必要</b>と思います。現状のステーション収集では何が問題なのか？誰が困っているのか？収集作業員が困っているのか？自治会の方々が困っているのか？それとも行政が困っているのか？立場によって困っている事、悩んでいることに違いがあり、これらを解決するためにはどうすることが一番なのか。細かいところですが、多額の費用をかけて行うのであれば必要なことだと思います。戸別収集をどのような形でも始めれば、結果ステーション収集の方が良かったと言って、ステーション収集に戻すことは難しいと思います。<b>しっかりとした情報収集、社会実験検証、準備が必要</b>だと思うのが、現在の自分の考えです。</p>	<p>審議会での議論の中で、地域により「ごみ収集」の抱える問題点が異なることが明らかになりました。ステーション方式が機能している地域と、一般ごみに事業ごみが混ざる地域など様々です。また、戸別収集には、インフラの整備も人的資源の投入も必要になります、すぐに用意することは難しいと考えられます。戸別収集の実施には段階的な投資が必要であり、一斉実施を考えると、実施しないことと同義になりかねません。その地域にあった行政サービスを提供する観点から、<b>実証実験を実施しながら、効果の見込める地域で先行実施していくのが良い</b>と考えます。</p>	<p>茅ヶ崎市に即してというよりも、一般論に近い判断だが、(1)～(4)にも述べた通り、<b>モデル実験を終了上で、広範かつ速やかに戸別収集を実施することを支持</b>。費用負担増については、茅ヶ崎市民ではなく税負担を行わない者であり述べる立場にはないが、期待されるごみの排出・収集場所の改善や減量効果に立ち、必ずしも大きな負担とは考えない。鎌倉市等での経験を踏まえると、行政的判断・政治的意思の問題と思量。審議会での議論において改めて考えたい。</p>	<p>「6割の方が実施に異を唱えています」の件ですが、実際に、朝ゴミ出しをして、仕事に行き、夕方か夜にかけて帰宅される方も多くなっています。不適正排出で周りの人に迷惑が掛かっている実態を見ることはない人もいないのか。こうしたことも考慮する必要があるのではないかと思います。まず、<b>一部の地域での社会実験をしてみることは必要だ</b>と思います。</p>	

- ▶ ステーション収集方式の維持
- ▶ 戸別収集実施に向けた継続検討（戸別収集社会実験の実施・アンケート調査など）の実施